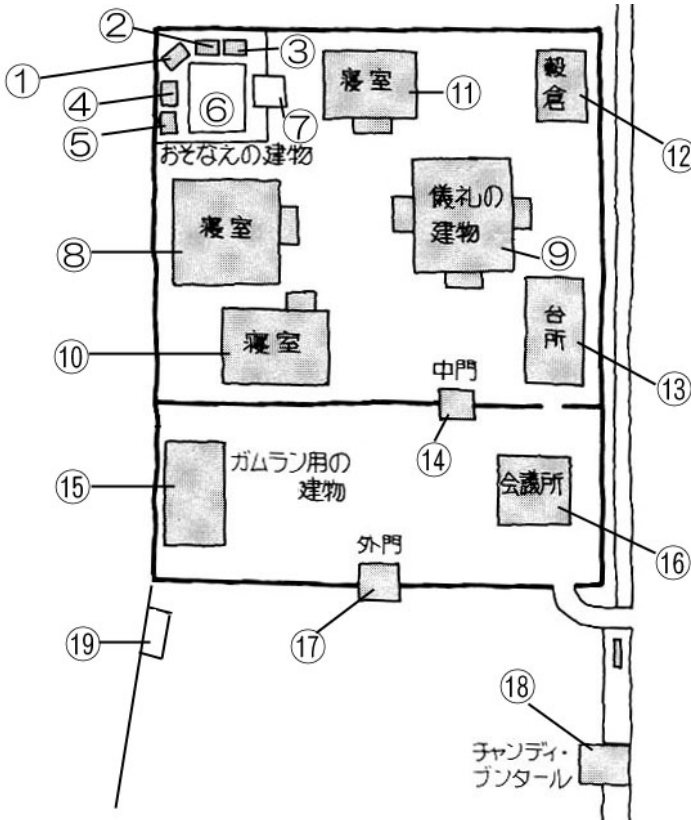


とうきぞく
インドネシア バリ島貴族の家

せきどうちよっか
 赤道直下の火山の島、バリ島。ヒンドゥー文化の 影響 を受けた
 この地の社会には、貴族と平民をわけるカーストを模した制度が
 あります。展示家屋は貴族階級の屋敷をモデルに復元したもので、
 敷地を内壁で 3 つにわけて建物を配置しています。いちばん奥の
 ①～⑥はもっとも神聖な区画で、ヒンドゥーの神がみや祖先を
 まつる屋敷内の寺院（祭祀場）があります。⑧～⑬の中央部分は、
 儀礼の建物を中心に寝室、穀物庫、台所が建ち並ぶ生活の場であり、
 ⑮～⑯の手前の部分は、お祭りや儀礼のときに余興として踊りや
 ガムラン演奏をする場です。



インドネシア バリ島の衣装 いしやう

バリの女性の普段着は、カインと呼ばれる無縫製の帯状の一枚布を体に巻くものでした。今ではイスラームやヨーロッパの影響もあり、ヒンドゥー教を信仰するバリ島でも女性は肌を隠すようになり、ブラウスやスカートといった装いをしていますが、お祭りや結婚式、舞踊ともなると華やかな衣装を身にまといます。

バリの舞踊には大別してワリ、ブバリ、バリバリアンという3種があり、舞踊によって衣装は異なります。ワリは、寺院内の儀式で神様のために踊る神聖なものです。ブバリも神聖な舞踊ですが、物語にそって舞います。バリバリアンは娯楽性が高く、神様と人間の両方が楽しむものであり、たくさんの人が観覧できるように、寺院の前の集会所などで踊ります。

マルハナバチの踊り（オレックタンブリリンガン）

バリバリアンには、レゴンやパリスといった有名な舞踊のほかに、オレックタンブリリンガンという舞踊があります。

“オレック”は「柔らかく、しなやかな」、 “タンブリリンガン”は「マルハナバチ」という意味です。この舞踊の女性役は、冠とブンガ・マス(金の花)というかんざしで飾り立てた女王様のような衣装をまといます。

物語は、伝統的なバリの恋物語を表しています。美しい花園で恋をした若い男女のハチが舞い踊る様子は、若いバリの人びとの求愛の儀式を象徴しています。今日バリでは盛んに新たな舞踊が作られており、これも1950年代に創作されたものと言われています。

